

令和7年度 事業所向け 放課後等デイサービス 自己評価表

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースを確保している。デイルームやホールを活動によって分けて活用している。近所の公園などを利用し屋外遊びの機会を設けている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で必要とされる配置数であるが、利用者の特性等を考慮すると困難な時もある。常にケガなどの安全面に目を配るように留意している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じバリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	建物の構造上段差や階段があるため柵や保護材を付けて対策している。幼児用トイレがあり、体の小さな子は利用している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもたちの活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の清掃や消毒と共に、整理整頓に努め居心地のよい環境づくりを行っている。スペースの制限があり、こどもたちの自由に使える玩具等や制作物等のコーナーを設けることに苦慮している。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の着替えやクールダウンが必要な場合のほか、こどもからの求めに応じて集団から離れた活動の場を提供している。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々のカンファや月2回のミーティング等のほか、日常的な意見交換、情報共有等で確認し対策を検討しながら実施している。
	7	保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年1回保護者の方にアンケートを依頼し、成果や課題を把握すると共に、面談や雑談等から保護者の率直な意向を汲み取り業務改善に生かしている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のカンファや月1回のミーティング、報告・連絡・相談を徹底し、日常的な意見交換や情報共有等で確認したり対策を検討したりしている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在、第三者による外部評価は行っていない。今後必要に応じて実施を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		講師を招き幼児救急法や防災等の研修を行っている。個別に外部機関の研修やオンライン研修等に参加している。ミーティングの際、出張報告による研修を行った。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成しホームページにて公表している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		園独自のアセスメント票を作成し活用している。また、相談支援員のサービス計画を基にこどもの発達状況や課題、保護者の方のニーズや希望を把握し作成している。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援にかかわる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員ミーティングや日々のカンファレンスでこどもの状況を話し合うとともに、案の段階で回覧し意見交換をするようにしている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		放課後等デイサービス計画を回覧し確認したり、日々の記録用紙に個別の具体目標を確認できる欄を設けることで意識的な支援をしたりできるようにしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用するなどにより確認しているか。		○	標準化された検査器具を利用できる環境にない。インフォーマルなアセスメントツールとしてアセスメントシートを使用している。また、保護者から専門機関で受けた検査結果等のコピーを提供していただき活用している。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で具体的な支援内容が設定されているか。	○		厚生労働省より示された放課後等デイサービス計画の見本例に合わせて、必要項目や内容を設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月の職員ミーティングや日々のカンファレンスで話し合い検討し立案している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		年間通して継続する活動もあるが、調理や季節のイベント等は利用者の特性や嗜好等に配慮し工夫している。長期休暇の活動は吟味し創意工夫に努めている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動とを適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し支援が行われているか。	○		主活動は集団活動で行うが、利用者の特性や課題等を考慮し個別に対応している。自由時間は個別にリラックスして過ごせるよう環境を整え、活動を計画している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日カンファレンスを行い支援の内容や役割分担等を職員間で確認した。長期休暇中は日々の活動計画細案を作成して配付し、確認し合いながら業務を行った。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		翌日のカンファレンスで報告し合い共有すると共に、業務日誌や職員用の連絡ノートを活用している。緊急性のあることについては、その場で共有し支援の変更等を職員間で共通理解するようにした。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録を確実に行うと共に、ディでの様子や保護者とのやりとり等を踏まえ支援を柔軟に再構築し実施している。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的に支援会議で話し合うとともに相談員と連携し、年2回以上見直しをしている。適切にモニタリングを行い、個別の支援計画の目標や支援内容を見直し作成している。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインで示す支援内容を基に、児童の発達状況や課題を把握した上で個別の支援計画の支援内容を設定している。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		安全上の事案を除き、自己選択や自己決定ができるような言葉かけやかかわりをスタッフ間で共有している。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や、児童及び家庭の状況を把握した者が参画している。
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関との連携ができています。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		学校の情報は保護者を通して行うとともに、メールやホームページ等で確認している。個別の事案に関しては、送迎の際に担任とやりとりをしている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて、文書や電話、会議等で情報交換等を行っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	*	*	情報提供等の問い合わせはないが、求めに応じて保護者の了解も得ながら文書や電話、会議等で情報提供できるよう準備している。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修への参加、関係機関への相談や連絡を必要に応じて行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	事業所間の交流は行っていないが、地域の公園や施設等を利用した際、場を共有して遊ぶ機会がある。

関係機関や保護者との連携	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		主に児童発達支援管理責任者が地域のこども部会へ参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		定期的な面談の他、送迎時に口頭でやりとりを行うと共に連絡帳や日々の記録を通して、こどもの状況や成長、課題などを伝え共通理解を図っている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供を行っているか。	○		キラキラ療育教室や保護者との面談を行い、情報提供や育児などの相談対応する場を設けている。研修の案内を配布している。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行っている。質問があれば随時丁寧に説明をしていく。
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		相談員と連携しサービス計画を参考にするとともに、保護者との面談を行い思いや願い、意向等を確認して作成している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者との面談を通して説明し同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や連絡帳による相談などには、迅速に対応すると共に、必要に応じて面談の場を設け、話を傾聴し助言や情報提供等の対応を行っている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		月一度のキラキラ療育教室を行っている。利用児のきょうだいも参加することもあり交流する機会になっている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情に関する体制整備については契約時に説明を行っている。苦情があった際には、迅速に対応し話を傾聴し解決するようにしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		メールやLINE、コドモンを活用すると共に、文書でのお知らせや掲示等を行っている。必要な情報はホームページへの掲載を行っている。
	43	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	○		個人情報の取り扱いについては全職員で共通理解を図り、漏洩等のないよう細心の注意を払っている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		こども一人ひとりの特性や発達に合わせた方法で対応している。保護者の方に対しては、文書と共に口頭で説明したり、情報を伝えるタイミングや方法を配慮するようにしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		防犯やこどもたちの特性上、開かれた交流の場は作っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を行っているか。	○		感染症対応マニュアルをはじめ、各種マニュアルは全職員が把握すると共に保護者が見ることができるようホームページに掲載している。非常災害に備え、防災グッズの定期確認と避難訓練や避難路確認等を実施している。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		随時服薬の状況や薬の変更等を確認している。てんかん発作のある子については、発作時の記録を取ると共に発作の状況を家庭と情報共有している。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	*	*	現在は、比較的軽症な事例のため保護者を通じた情報提供に基づき対応している。必要に応じて、アレルギー検査結果や学校に提出している指示書の写しの提出を求め、全職員で共通理解を図っていく。

非常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		防災計画の作成や訓練、災害時の備蓄等を行っている。門扉のセキュリティや屋内外の防犯カメラ設置等、安全管理に努めている。送迎経路マップを作成し確認している。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者が見ることができるようホームページに掲載している。また、緊急時にスムーズに連絡が取り合えるよう、年2回の緊急時連絡訓練を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットとインシデント作成について共通理解を図り、作成を行った。再発防止に向けては繰り返し日々のカンファレンスで情報共有しながら進めた。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		CAPを取り入れこどもの権利について理解を深めると共に、定期的に研修を重ね、職員間で適切なかわりを共有できるよう話し合った。所内外の研修機会をさらに図っていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	*	*	身体拘束は行っていない。